

■吉阪隆正 建築家。独創的な作品を手掛け、多くの後進を育成し、大学では<全共闘>に真摯に対応。登山家でもあった。

よしざかたかまさ

ロシア革命・1917＝ 東京の小石川の母(花子)方の祖父母の家で、内務官僚吉阪俊蔵の長男に生まれる。母方の祖父箕作佳吉は、津山藩医箕作秋坪の三男で(菊池大麓の弟)、近代草創期の動物学者。本格政党内閣1918＝ 1歳：父が第一次大戦終結後のパリ講和会議全権随員となり、

原敬首相暗殺1921＝ 4歳：父が国際労働機関設立のためのためジュネーブに赴任したのに、一家で従い、_幼時に国際体験、

関東大震災・1923＝ 6歳：帰国。暁星小学校に入学。

日本時代始・1926＝ 9歳：父が友人大内兵衛から譲り受けた新宿百人町の家に住い、生涯の拠点となる。

世界恐慌・・1929＝12歳：卒業すると、再びジュネーブに渡り、

満州事変・・1931＝14歳：_国際的視野で次世代のために創設されたジュネーブ・エコール・アンテルナショナルに入学し、

国際連盟脱退1933＝16歳：_卒業後、イギリスのエジンバラ大学の教授宅に単身寄宿、アイデンティティを揺さぶられて帰国、

芥川直木賞始1935＝18歳：_早稲田高等学院理科に入学、山岳部に入り、1年の半分近くを山で過し、登山家としての歩みも始まる。

日中戦争始・1937＝20歳：

健保+総動員 1938＝21歳：_早稲田大学建築学科に進み、

第二次大戦始1939＝22歳：今和次郎の指導で農村および民家の調査、木村幸一郎に同行しての北千島学術調査隊や、

日米開戦・・1941＝24歳：_北支満蒙の住居調査に参加、卒論「北支満疆に於ける住居の地理学的考察」で、卒業。教務補助となるが、
・・・・・1942＝25歳：_応召し、満洲に出征、

年金+総武装 1944＝27歳：

敗戦・・・・1945＝28歳：満州で甲野富久子と結婚後、朝鮮光州で<敗戦>となり引揚げ、その間、百人町の自宅は空襲で焼失。

新憲法公布・1946＝29歳：長男が誕生。_早稲田大学専門部講師となり、百人町の焼け跡にバラックを建てて生活を再開、家の無い友人たちも集まってくる。銀座と渋谷の消費視興地区の競技設計に参加し、1等。

新憲法施行・1947＝30歳：早稲田大学専門部工科助教授、「早稲田文教地区計画」、

極東裁判決・1948＝31歳：次男が誕生。

三大事件・・1949＝32歳：「住居学概論」。_早稲田大学理工学部工科助教授となり、

朝鮮戦争始・1950＝33歳：「住居学汎論」。_再開されたフランス政府給費留学生に選ばれて渡仏、コルビュジエに出会って魅せられ、そのアトリエに入る。マルセイユ・ユニテの現場担当などする間、フランス国内を自転車旅行、

独立回復・・1951＝34歳：イギリスでのCIAM会議に出席、

マーデー事件・1952＝35歳：_マルセイユ・ユニテの竣工を機に、アラブ経由で、帰国。早稲田大学に戻り、

TV放送始・・1953＝36歳：「及川邸」設計、「パリ1950-52」、コルビュジエ「モデュロールⅠ」翻訳。

自衛隊発足・1954＝37歳：「ル・コルビュジエ」。*吉阪研究室を創設。サンパウロ・ピエンナーレや台湾の東海大学設計競技で1等。

55年体制始・1955＝38歳：西洋美術館の設計でコルビュジエが来日、訪欧中で会えず。以後も訪欧度々。_百人町に実験住居「自邸」、

国連加盟・・1956＝39歳：「十河邸」「ウマラ・クックウ」。_デビュー作「浦邸」が竣工、協働した大竹十三と生涯のパートナーになる。

なべ底不況・1957＝40歳：「丸山邸」「海星学園」。_早大赤道アフリカ横断遠征隊を組織して、記録映画「アフリカ横断一万キロ」を制作。「ベネチア・ピエンナーレ日本館」で芸術選奨受賞。

インスタントマン・1958＝41歳：ブラジル招勝講師として国際都市計画シンポジウムに参加。_「呉羽中学校」は以後4年続く。

美智子妃・・1959＝42歳：「江津市庁舎」、_以降、各地で、ヒュッテや山荘を設計。教授となる。「日仏会館」でフランス文化勲章。

安保闘争・・1960＝43歳：コルビュジエ「モデュロールⅡ」翻訳。_早大のアラスカ・マッキンレー遠征隊の隊長を務め、

タイタイ病始・1961＝44歳：長女が誕生。「宇為火タチノオハナシ」。西洋美術館での(コルビュジエ展)実行委員。_「原始境から文明境へ」を著す。アルゼンチンの国立ツクマン大学教授招聘を機に、吉阪研究室を百人町の自邸に移し、

全国総合計画1962＝45歳：帰国し、_プレハブのアトリエを新設するなど、実験は没するまで続けられる。

TV宇宙中継始1963＝46歳：キューバでのUIA大会に出席、カストロやゲバラに会う。*「アテネ・フランセ」の最初の施設で建築学会作品賞、以後没するまで、設計が続く。代表作となる「大学セミナーハウス」がスタート、

東京リベンジャ 1964＝47歳：「住居学概論」。_「U研究室」と改称。

大学紛争始・1965＝48歳：「住居学」。スウェーデンのオレプロでの住宅地域計画会議、パリでのUIA大会に出席。

美濃部都知事1967＝50歳：コルビュジエ「建築をめざして」翻訳。シドニー大学招聘教授。_大島の庁舎から公園まで諸施設を設計。

霞ヶ関ビル・1968＝51歳：「住居デザイン論」。オーストラリア・パースでの都市計画会議招聘講師。_大島での諸施設設計が続く。

全共闘ビル・1969＝52歳：*大学紛争のなか、早稲田大学理工学部長に就任、

大阪万博・・1970＝53歳：漢陽大学・早稲田大学合同韓国集落調査団団長。_「21世紀の日本列島像」で総合賞。

ドルショック・・1971＝54歳：「コンクリートの家」「現代住居」。_公務が多くなって「U研究室」の業務が空白化、主力メンバーが独立、

日中国交回復1972＝55歳：チャンディガール研修会団長としてインド訪問、以後3回。_全共闘学生らとの折衝「告示録」をまとめる。

石油ショック1973＝56歳：テレビ大学講座(住居学)15回。_日本建築学会会長。<オイルショック>で計画ほとんどが中止となり、

角栄金脈辞任1974＝57歳：_日中建築技術交流会長、日本生活学会会長、

クランブル事件1975＝58歳：_日本建築積算協会会長に就任、

田中角栄逮捕1976＝59歳：コルビュジエ「アテネ憲章」翻訳。再び、日中建築技術交流会訪中団団長として訪中。_大竹が心筋梗塞で倒

れて、危機となり、再び、「U研究室」の仕事への執念を燃やし始めるものの、

JALハイジャック・1977＝60歳：以後3年、「ル・コルビュジエ全作品集」8巻翻訳。ヨーロッパ諸国・中国・西地中海訪問

成田衝突・・1978＝61歳：ボストン大学・ハーバード大学G. S. D. の招聘教授として滞米。早稲田大学専門学校校長、

革新大敗北・1979＝62歳：日中建築技術交流会と、日本デザイン・コミッティで中国訪問など、_国際的活動が頻繁で叶わず、

貿易摩擦問題1980＝63歳：アブダビにて市庁舎コンペ審査、帰国後、癌性腹膜炎のため入院し_没した。

_「大学セミナーハウス」は、その後も関係者が引き継ぐ、現在も整備が続いている。

斎藤祐子「吉阪隆正の方法」、アルキテクト編「好きなことはやらずにはいられない」、